

# 生き返りのツボ

「あーたたたた たー！。お前はもう、死んでいる」

「ひでぶ！」（敵が絶命するときの効果音）

というのはご存知の通り、北斗の拳（漫画です）のケンシロウであります。知らない方の為に説明いたしますと、ケンシロウは胸に北斗七星の形をした七つの傷を持つ筋肉ムキムキのヒーローであり、北斗神拳と呼ばれる武道の継承者であります。その特技は相手の「秘孔」と呼ばれるツボを指で突くことで筋肉を異常なほど膨張させ、体内から爆発を起こし、ついには死に至らしめるという、まっこと恐ろしい男であります。「邪魔する奴は指先一つでダウンさ」と主題歌に歌われたように、まさに指一本で命を操るのが北斗の拳の真髄でありました。

さて、あの筋肉隆々の世紀末的超非現実的アニメと、かけはしの家畜技術情報コーナーに何の関係があるのかと言いますと、「指先一つ」というところがポイントで、ケンシロウが指一本で命を奪うのに対し、指一本で命を救おうと言うのが今回のお話です。人間と同じように家畜にも多くツボがあり、よく知られた神経麻痺のツボから食欲不振、繁殖障害まで様々知られていますが、ウソかマコトか「生き返りのツボ」をご紹介します。



昨今の品種改良の進歩は目覚しく、配合の妙によっては50kgを超える新生子牛も珍しくなくなり、分娩時に頭と前足が揃っていても難産になる確率は多くなってきています。何とか苦勞して引っ張り出したものの、子牛が息をせずにごったりしている。もちろん、今から獣医さんと呼んだのでは間に合いません。このような場合の蘇生法としては、逆さに吊るす、麦稈で鼻の奥を刺激する、人工呼吸を施す、などが知られています。とにかく、自分で呼吸を始めたくない生きものも生きられません。そんなとき、この「生き返りのツボ」を思い出してください。場所は「舌の付け根」で、口の中の羊水やネバネバを拭い去ってから、口の中深くに手を突っ込んで、遠慮無しに親指を立てて思いっきり押します。すると、呼吸の中樞が刺激されるのか、自発呼吸を始めることが多いです。たぶん、子牛も「オエッ」と苦しく感じるでしょうが、その指先一つで生きるか死ぬかが分かれると思えば、少し我慢してもらいましょう。そのツボを、名づけて「悶絶（もんぜつ）」。（私が勝手に付けた名前です。）

次回は弟子屈診療所の本間さんにバトンタッチします。

（音別白糠家畜診療所診療課 鮎川 悠）